

第2回近山イベント 森林にふれよう！

7月28日(日)に行われた近山イベントのレポートです。

スケジュール概要

9:00 ~ 9:15	説明	
9:15 ~ 9:30	徒歩移動(ウォークウォッチング)	
9:30 ~ 11:30	下草刈り体験	●体験林の提供者 山田村若土・小西源清氏 (婦負森林組合造林地)
11:30 ~ 12:00	徒歩移動	
12:00 ~ 13:00	昼食(バーベキュー)	●コーディネーター 近堂純氏
13:00 ~ 14:00	森の鉢植え教室	
14:00	解散	

木楽に集合し、さぁ！出発です。社長が少々お話を……。上婦負ケーブルテレビの方が取材に来ておられました。



この日は霧がかかって、マイナスイオンがいっぱい！



下草刈りをする場所まで歩きます。おしゃべりしながら……。自然を肌で感じながら……。

途中、森林インストラクターの近堂さんのお話に耳をかたむけます。

ただいま、勉強中！

どうして下草刈りが必要なの??

植林した苗木は、植えた年数から数年間は(約10年生ほどまで)下草刈りが欠かせません。勢いのいい草などに背を追い越されると、若い木が育たなくなるからです。また、木にからみつくツルは木が締め殺されてしまわないように、見つけたときはすぐに切っておきます。下草刈りは夏に行われるため、炎天と草むらから立ちのぼるムワツとする暑さの中の作業で、林業家にとって辛い仕事の一つです。

— 今回はそれを体験するイベントでした —

下の2つの写真を見てください。下草刈りをした結果、健康な木が顔を出しました。(写真左)しかし、もう手遅れの木もありました。他の草木に邪魔され曲がってしまったのです。(写真右)



「杉」の名の由来の通り、真っ直ぐ育ちますように……。



木を育てる— 難しい事なのです。



森林インストラクターの近堂さんです。
下草刈りや、カマの使い方について教えて下さいました。

「う～ん、なるほどー。」

では、実際にやってみよう！！



僕たちだって！！
みんな、小学生です。
最後まで頑張りました。



ものすごい量の草木が生い茂っていました。
木を傷つけないように、少しずつ、慎重に・・・。
この日は曇りだったので、作業がわりと楽な方だったそうです。それでも、かなりの体力を使いました。
本当に大変な作業だという事を、身を持って感じました。

林業家の方は、この作業を夏の暑い中、
何時間も何日間も続けるのです。

その後、木楽に戻り、みんなでバーベキューをしました。
外の空気を吸いながら、楽しい時間を過ごしました。
気持ちいい汗をかいた後の外での食事は、とてもおいしかったですよ。

森の鉢植え教室では・・・



木楽の裏で、森林の稚樹や山野草を自分で採ってきて、植えました。
きれいですね。

近くの山を守ろう

古くから、「治山は治水」と言われてきました。
豊かな平野は、後背の山あってのことです。
川や海の魚がおいしいのは、山が豊かなからこそです。

かつて山には人がいました。
山を守り、育てる人。木を伐り、製材し、運ぶ人。材を加工し、家をつくる人。

しかし、今、山から人が失われ、日本の山は死にかけています。
放置されたが故に荒廃してしまったのです。

山の荒廃をストップさせ、山を蘇らせるには、何をしたらよいのでしょうか？

山と町、川上と川下、生産者と消費者が面と向かって話し合い、お互いの置かれた現実を見つめるのです。
また、山に足を運び、荒れた山の現場に立ち、手入れの行き届いた山を見れば
みずみずしい緑を取り戻そう、という気持ちがわいてきます。



もう一度見つめ直してみましょう。
一人の力もたくさん集まれば、大きな力となります。

あなたの力が、あなたの気持ちが必要なのです。
